〈熊本テクノポリスの大通り―国道325号沿線〉

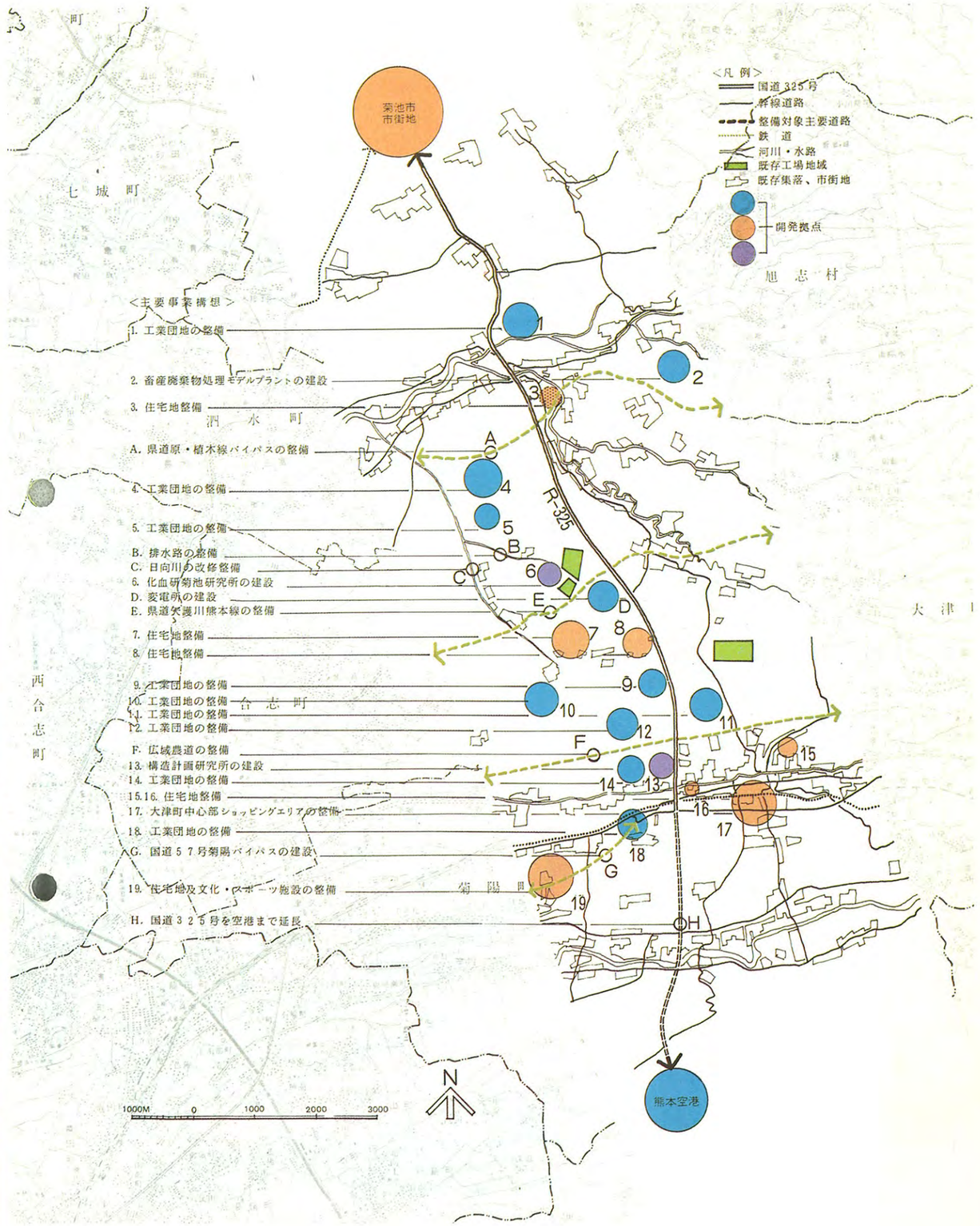
テクノポリス構想が目指すものは、先端技術の集積を原動力とする地域開発のための長期的視野に立った運動です。このような運動の積み重ねは、21世紀の熊本の将来像を一段と具体的に、かつ鮮かなものとしていきます。

熊本テクノポリスでは、計画を進めていく地域のなかで、交通条件、土地利用状況、施設が立地する場合の電力、水など種々の条件を考慮しながら、生産や研究の場が、そして生産や研究開発に携わる人々の生活の場がいろいろな地域に整備されていきます。

テクノポリス建設が進められ地域の中でも特に、北の生活拠点菊池市から大津町に至る国道325号沿線は、空港や九州縦貫自動車道熊本インターへの交通条件にも優れていることなどにより、今後、研究開発機能、生産機能の集中的な立地展開が期待されます。

現在その地域では、既にいくつかの情報関連企業の立地が進められています。ソフト開発に携わる技術者は、交通・通信の利便性さえ確保されれば今や、豊かな自然環境を求めて地方都市へ、そして効外へと研究開発、生産の場を求めています。こうした要請に応える格好の場から325号沿線です。

325号沿線では、ソフト開発型企業や関連研究施設の新規立地を核として、ソフト開発に関する研究・生産施設をはじめ一般県民向け展示、学習施設などさまざまな施設群によるソフトの森が形成されています。

バイオテクノロジー関連の研究施設が集まる研究所公園―バイオの森―が整備されていくのも325号沿線です。

これらの施設の受け皿となる道路や工業団地の整備、あるいは良好な環境へ比較的大型の住宅地開発も期待され、国道325号沿線は、熊本テクノポリス建設が進んでいく中で大通りとしての賑いを呈していきます。